

# 性格特性と他者行動の交互作用が歩行者の信号無視意図に及ぼす影響

松田 康佑

歩行者の信号無視行動は交通事故の一因となる重要な問題であり、その背景には個人の性格特性や周囲の社会的状況が関与していると考えられる。先行研究では、衝動性などの人的要因や、周囲の他者行動といった社会的要因が、それぞれ歩行者行動に影響を及ぼすことが示されてきた。しかし、実際の横断場面ではこれらの要因は同時に作用しており、両者の相互作用を直接検討した研究は十分とは言えない。

本研究の目的は、歩行者の信号無視意図に対して、性格特性(衝動性・誠実性)と他者の行動(信号遵守・信号無視)がどのように影響し合うのかを明らかにすることである。特に、性格特性が他者行動の影響を調整する可能性に着目し、その効果が提示状況によってどのように変化するかを検討した。

研究 1 では、成人 345 名を対象としたオンライン実験を実施した。参加者は、赤信号で横断歩道の前に立つ歩行者の視点を模した実写映像および文章によって、赤信号下での横断場面(他者が遵守/違反)を提示した。その後、提示された状況において自身が信号を無視して横断する可能性を、0 から 100 の百分率で回答した。あわせて、衝動性および誠実性を測定する質問紙調査を行った。

研究 2 では、大学生 63 名を対象に、360 度カメラで撮影した実写映像を用いた VR 実験を実施した。参加者は VR ゴーグルを装着し、研究 1 と同様に赤信号での横断場面を視聴した後、各場面における信号無視意図を口頭で回答した。研究 2 では、より現実に近い状況を提示することで、生態学的妥当性の高い条件下で研究 1 の結果が再現されるかを検討した。

分析の結果、研究 1 では、他者が信号を無視している状況において、衝動性の高い個人ほど信号無視意図が高まる傾向が示され、衝動性と他者行動の交互作用が確認された。具体的には、衝動性の影響は他者が信号を無視している状況で顕著に現れた一方、他者が信号を守っている状況では衝動性の高低による信号無視意図の差は小さかった。一方、誠実性については予測された交互作用は支持されなかった。研究 2 では、他者行動の主効果は認められ、周囲に信号無視を行う歩行者が存在する場合に信号無視意図が高まることが示されたが、衝動性および誠実性と他者行動との交互作用はいずれも有意とはならなかった。

これらの結果から、歩行者の信号無視意図は、性格特性そのものよりも周囲の他者行動という社会的手がかりによって強く規定される一方で、性格特性の影響は、社会的情報が明示的かつ単純に提示される状況において顕在化しやすい可能性が示唆された。本研究は、性格特性と社会的影響の関係を一律に捉えるのではなく、その効果が生じる条件を明確にする必要性を示した点に意義がある。(安全行動学)